

Здравствуйте！ こんにちは！

楽しく学ぶロシア語

どこで話されている言葉？

ロシア語が使われている国はロシアだけではありません。ロシアは30数年前まで、ソビエト連邦という巨大な連邦国家の中心でした。ソ連には、ロシアの他にベラルーシやウクライナ、北のバルト3国（ラトビア、エストニア、リトアニア）、中央アジアの5か国（カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、キルギス）、さらに南のグルジア、アゼルバイジャン、モルドバ、アルメニアが含まれていました。これらの国々におけるロシア語の使用状況は、歴史的背景や政治情勢によって異なりますが、今でも、ロシア人が居住し、ロシア語が日常的に話されている国があります。ベラルーシやカザフスタンなどのように、自国の民族語とともに、ロシア語を公用語としている国もあります。多民族国家であるロシア連邦に住む約1億4000万の人々の他にも、主要言語あるいは第2、第3言語としてロシア語を用いている人の数は相当数にのぼると言えるでしょう。

日本語・英語とはどんな関係？

ロシア語は、スラブ語派というインド・ヨーロッパ語派の中でも大きなグループに属し、ベラルーシ語やウクライナ語とは特に近い関係にあります。ポーランド語やチェコ語もスラブ語派の一員ですが、これらの言語では英語と同じ ラテン文字が使われています。ロシア語の文字は独特な形を持ち、日本でも絵文字として使われることがあります。同じスラブ語なのにどうして文字が違うのでしょうか？それは、キリスト教の受容のあり方と深く関わっています。ロシア語の文字はギリシア正教の学僧キリロス（ロシア語名ではキリル）がスラブ人の間に東方教会のキリスト教を普及させるために、スラブ人の発音に合わせて考案した文字がもとになっています。これがのちにキリル文字として、ロシアをはじめ正教を受け入れた国々で発達をとげました。

一方スラブ語派の国であっても、西方教会のキリスト教を受け入れた国々ではラテン文字が用いられることとなり、両者は別の文化圏に属し、時として対立する関係になることもありました。キリル文字については次の項で詳しく解説します。じつは、ラテン文字もギリシア文字がもとになっていますので、ロシア語には英語と共通のラテン文字も含まれています。英語はロシア語と同じくインド・ヨーロッパ語派に属していますが、キリル文字を用いるロシア語とはかなりかけ離れた言語に見えるのです。

単語をいくつか比較してみましょう。例えば、大学、学生、学校を意味する単語は英語と同じ起源を持ちますが、*university* = университет（ウニヴェルシテート）、*student* = студент（ストゥジエント）、*school* = школа（シュコーラ）のように響きが全く違います。ラジオやコンピューター、コーヒー、テニスのような新しい外来語は *радио*（ラヂオ）、*компьютер*（カムピューテル）、*кофе*（コーフエ）、*теннис*（テニス）となり、これらは日本語でもすぐわかりますね。

さて、そんなロシア語ですが、実は私たちの周りにもロシア語由来の言葉が結構あります。例えば、「イクラ」はロシア語で「魚卵」を意味する **икра**（イクラー）から来ています。また、女性が髪に着ける「カチューシャ（капюшон）」もロシア語が語源で、元々は「エカチェリーナ」という女性の名前の愛称です。この他にも、「寄付」を意味する「カンパ」や「秘密基地」を意味する「アジト」、「知識階級」を意味する「インテリ」などがあります。

音と文字

ロシア語のアルファベットには33の文字があります。そのうち2つは音を表さない記号です。

次の10文字は母音を表します。**а**（アー）、**ы**（ウイー）、**у**（ウー）、**э**（エー）、**о**（オー）；**я**（ヤー）、**и**（イー）、**ю**（ユー）、**е**（イエー）、**ё**（ヨー）

カタカナで記した音を見てください。8個の母音は日本語のア、イ、ウ、エ、オ、ヤ、ユ、ヨとよく似ています。実際少し強めに発音するだけでOKです。**ы**（ウイ）と**е**（イエ）だけは新たに覚える必要があります。さらに21の子音があり、そのうち12の子音は6通りのペアを成しています。

б（ブ）、**в**（ヴ）、**г**（グ）、**д**（ドゥ）、**ж**（ジュ）、**з**（ズ）
п（プ）、**ф**（フ）、**к**（ク）、**т**（トゥ）、**ш**（シュ）、**с**（ス）

詳しくは授業で解説しますが、これらは口の形が同じで、上の音は有声子音（濁音）、下の音は無声子音といって空気が抜けている音です。

残りの9の子音は次の文字と音です。

л（ル）、**м**（ム）、**н**（ヌ）、**й**（イ）、**р**（ル）、**х**（フ）、**ц**（ツ）、**ч**（チ）、**щ**（シイ）

すぐ前の項でもお話ししたようにスラブ人の発音に文字をあてていったわけですから、これらの文字はロシア語の音を表すのにとても合理的にできています。

先ほど例に挙げた英語の **school** はつづりを覚えなければ読めませんが、ロシア語の **школа** は、**шу+コ+ラ** とローマ字を読む要領で読んでいくことができます（日本語では子音だけの音は「ん」くらいですが、ロシア語には多々あります。子音の読み方は上記のままです）。また母音を含む単語には必ず一か所アクセントがありますので、そこをやや伸ばして発音します。地図は **карта** = カールタ、本は **книга** = クニーガ、鉛筆なら **карандаш** = カランダーシュ、という具合です。ニヤ、ニュ、ニヨのような音も2文字で書くことができます。**няня** = ニヤーニヤ（保育士）、**мяч** = ミヤーチ（ボール）、**Таня** = ターニヤ（女性の名）というように。アルファベットの数こそ33個と英語より多めですが、31種類の音とちょっとした記号の使い方、それにいくつかの音の規則さえ覚えれば読むことができます。はじめて見るロシア文字に「難しそう」と感じる人も多いようですが、誰でもすぐに拾い読みができるようになるので、見かけほど難しくありません。ただ、PやHのように英語と共通の文字を使いながら、ロシア語ではそれぞれ、ル、ンと発音しなければならないなど、紛らわしい面もあります。とくにPはルルル～と舌を震わせる、いわゆる巻き舌です。中にははじめから上手な人もいますが、不得意な人も練習で

かなり出せるようになります。ロシア人の子供だって31音中これが1番難しいとされ、一生懸命練習して習得しているのですから、すぐにできなくてもあきらめる必要はまったくありません。

ちなみにモンゴルでは表記のために文字だけロシア文字を使用しています。伝統的なモンゴル固有の文字がとても難しいので、友好国であったロシアのアルファベットを借用したのですね。

日本人にとって学びやすい点／学びにくい点

すでに見てきたように、馴染みのない文字があるわりには、ローマ字読みに慣れている日本人には、一字一音対応が徹底しているので読みやすいことがあげられるでしょう。ただし、アクセントの位置は単語によってばらばらなので、単語を覚えるときは意味を確認するだけではなく、どこにアクセントがあるかチェックする必要があります。そのためには默読するのではなくて、かならず声に出してみる習慣をつけましょう。

それからロシア語には名詞一語文というのがあって、「春です」は Весна. (ヴェスナー=春) と一語でりっぱな文になります。「寒いです」も Холодно. (ホーラドゥナ=寒い) とやはり一語で表現します (*アクセントのない〇はアーと発音します)。英語なら It's cold. となるところですが、自然現象などには主語を入れない言い方をするのがふつうなのです。こんなところも日本語の感覚からすると親近感がわくような気がしませんか。

またロシアはあれほど広大な国であるにもかかわらず、方言の差がほとんどありません。

大学で勉強するのはモスクワの中部方言ですが、北部・南部方言とも大きな違いはないのです。

大変な点は語尾変化を身に付けなければならないということでしょう。名詞には男性、女性、中性と3つの性の区別があり、さらに単数、複数の区別がありますが、実はもうひとつ、格変化ということがあります。

(1a) Я ^{ヤー} студент. (я =私は／ студент =学生です)

(1b) Я ^{ヤー} знаю студента. (я =私は／ знаю =知っている／ студента =学生を)

「私はその学生を知っている」と言うときは(1b)のように学生という単語の語尾にひとつだけaをつけて「学生を」と表現します。これが格変化です。ちょうど日本語で「を」という助詞をくっつけるのと似ています。

ロシア語豆知識

日本ではロシア人の名前というと「イワン」が有名ですが、実際ロシアにはイワンがたくさんいます。歴史上もイワン大帝とかイワン雷帝などが有名ですね。ロシア正教が国教であった革命前まで(あるいはそれ以後も)、ロシア人は子供が生まれると教会の聖者の名を記した暦からわが子の名前をつけていました。教会暦には一日に数名の男女の聖人の名が記されているのですが、イワン聖人は170回も登場するので、イワンがふえてしまったのです。ロシア人の名前にあまりバリエーションがないのもこのためです。

ロシアの小説を読んでいて、長い名前が出てきたり、呼び方が変わってしまったりしてとま

どったことはありませんか。ドストエフスキイの代表作『カラマーゾフの兄弟』にはドミートリー、イワン、アレクセイという3人の兄弟が出てきますが、親しい人はドミートリーをミーチャ、アレクセイはアリョーシャというように愛称で呼ぶのが普通です。一方、あらたまつた場合や敬愛をこめる場合は、イワン・ヨードロビッチのように呼びかけます。ヨードロビッチは苗字ではなくて父親ヨードルの名前からきた父称というもので名前の後ろにつけられます。つまりロシア人の正式な名前は、名前・父称・苗字（例=イワン・ヨードロビッチ・カラマーゾフ）という構成になっているのです。

苗字は名前に比べると多様性があります。スミルノフ、イワノフ、クズネツォフなど古くからある伝統的な名前も存在する一方、新しく作られた苗字もたくさんあります。文学はこうした苗字の宝庫で、作家が発明した姓であふれています。すぐ上で取り上げたカラマーゾフも「黒」と「塗る」という意味のロシア語からドストエフスキイが考え出したといわれています。

最近のトピック

注目される北極海航路

近年、ロシア政府が力を入れている経済政策の一つに北極海航路の活用があります。地球の温暖化が、氷に閉ざされた北極海の航行をより容易なものに変えるという皮肉な結果をもたらしました。将来、東アジアとヨーロッパ間の海上物流がより増大した場合、現在の主要ルートであるスエズ運河航路のキャパシティが限界を迎える可能性もあることから、日本にとっても決して無関係ではありません。そもそもこの新たな航路はスエズ運河航路に比べて34%も距離を節約でき、マラッカ海峡などスエズ運河が抱える航路上の難所もなく、様々な点で有利だと言われています。事業はまだ始まったばかりで、整備すべき点も多々あるようですが、商業輸送は2009年から始まっています。ロシアは今後を見すえて、スエズ運河の代替ルートとしての活用のみならず、北極圏の石油・天然ガス輸送にも利用したいと考えているようです。北極海の氷が減少してホッキョクグマたちが行き場を失うという悲しい現実もある一方で、ビジネスも着々と進行中なのです。



原子力砕氷船ヤマール号